

全教 枚方教育

全教・枚方教職員組合

枚方市西禁野 1-1-3

No.1947 TEL 848-3300
2024.6.19. Fax 848-3052



組合ホームページ

給特法見直しでパブコメ 6/28(金)まで

残業代不支給、「時間外は自発・裁量業務」そのまま!? 教員待遇見直しで50年ぶりの機会、 職場の十マの声をぶつけよう

中教審の教員確保特別部会は5月13日に審議まとめを発表して、給特法の見直しを含めた、学校運営体制、教員の勤務環境の見直しを文科省に求めています。

問題だらけの「審議まとめ」(案)、今年度内に法案成立!?勝手に決めるな!!

しかし、枚方教育でもすでにお知らせしたように、従来の残業代不支給で「働かせ放題」の体制はそのまま、そのほかにも問題だらけの審議まとめとなっています。

特別部会はパブコメを受けて、正式にまとめを決定して、文科省に対応を求め、文科省は今年度内の給特法「見直し」の法案成立を目指しています。

50年ぶりの待遇見直しの機会。現場の声をきかずに勝手に決めることはあってはなりません。パブコメや全教の要求集約フォームに声を集中して、職場の声をぶつけましょう。

勝手に決めるな!!
勝手に決めるな!!

中教審審議まとめは問題だらけ

- ① 教職調整手当のわずかの増額で、「定額働かせ放題」はそのまま
- ② 教員定数の大幅増、少人数学級の拡充など先進国の常識の教育条件整備を否定
- ③ 「新しい職」をつくり「手当支給」では、先生のチームワークこわす。
役につかないと給料が上がらない、大阪市のような悲惨な学校現場にしない
- ④ 「教員業務は高い専門性、裁量性」と言いながら、実際には授業、具体的教育活動も委員会の指示の実態への対策放置



← e-e-o-vパブリック・コメントからの意見提出

文科省 Web フォームからの意見提出 →



全教（全日本教職員組合）はこう考えます 全教7つの提言

- ① 給特法改正で、調整額を超えた範囲の「残業代」を支給する仕組みを作る
- ② 教職員定数の抜本改善、勤務時間内で授業準備、その他の業務が完了できる教員配置
- ③ 少人数学級の推進を 先進国並みの学級人数と学級授業への教員複数配置を
- ④ 部活動の見直し 地域移行に国が責任もって予算化、学校で指導員確保を可能に
- ⑤ 競争主義的な上からの教育政策の見直しを
限界を超える学習量、高度で複雑すぎる学習指導要領の教育内容見直し
学校・教員の「専門性、裁量性」無視した上からの指示や拘束、強制を改める
- ⑥ 労働安全衛生体制の確立を
労働基準監督署にならう監督体制を。労使協議、協定を機能させて労働法に基づく対応を。産

業医、組合代表含む安全衛生委員会、協議会の実質化を

⑦ 教職員の声を施策に反映させる仕組みを

文科省・教育委員会の審議会に、教職員、組合代表参加を、意見反映の仕組みを

全教にも、リアルな実態や先生方の思い、声をお寄せください。

8月初めの文科省との交渉でできるだけ届けたいと思います。

全教の要求集約フォーム



「保護者とつながりあい、 信頼を広げるクラスづくり、アイデア実践交流会」

6月14日(金)に第2回の学び庵が開催されました。多忙な中で、組合員や職場の先生たちも学び庵に参加して、それぞれの経験や学んだことを持ち寄り、日常の保護者対応やクラスづくりに直接生かせるアイデアや実践を聞くことができました。

一中の西岡さんからは、中学校の保護者対応の普段の様子や、問題があった時だけに連絡するのではなく、積極的に子どもの様子や成長している姿、家庭で見せない姿を伝えることで信頼関係を広げ、何かあった時にも対話をしやすい関係づくりを心掛けている様子を報告してもらいました。

小倉小の菅さんからは、手書きの学級通信に乗せる内容を工夫しながら、保護者が読みたくなるような内容にすることで、家庭で子どもとの会話、学校の課題が出やすくなるよう心掛けている取り組みを紹介してもらいました。

「(小学校、中学校と上がるにつれ)保護者は子どもの学校での様子が伝わりにくく、不安や何かトラブルがあった時に、過剰に受け取ることになる。親の立場から考えて、伝えてもらうと助かるようなコミュニケーションの取り方が大切」と交流を深めました。



ひらかた九条の会 憲法を学ぶ春の集い6/29(土)13:30

枚方市総合文化芸術センター別館6階大会議室

自民裏金問題を告発の上脇博之さん(神戸学院大教授) 講演「さようなら金権政治 こんにちは憲法政治」



ひらかた九条の会は6月29日(土)に旧メセナひらかたで憲法講演会の開催を予定。自民党の派閥パーティー券問題から端を発した裏金問題。自民党だけでなく政府をも揺るがし、政権そのものが窮地に追い込まれています。しかし、政治資金規正法の改正は様々な思惑が絡み合い、迷走を重ねています。一部政治家からは「民主主義にはカネがかかる」と裏金を正当化し、法律で認めさせようとさえしています。

このような政権政党に、学校教育や先生たちの働き方が左右させられ、子どもも教職員も大きな困難に陥られています。

国民の声が政治に反映でき、政治家が企業のお金で左右されるような政治の在り方を根本から変えていくために何が必要なのか、貴重なお話が聞けます。 参加費 300円

全教（全日本教職員組合）の枚方教職員組合のニュースです 枚方教組に加入して学校や働き方を変えていきましょう

立ち止まって考える

何もしていないのは罪？多忙で頭が情報のごみ屋敷に？ 実は、ぼんやり・何もしない時ほど脳が活性化！！

ポジティブで、アクティブな面が強調され、子どもにも先生にも強く求められているのが現代社会、現在の「教育改革」。常に、何かしなければ、もっとしなければ、授業中ぼーっとしているのはよくない授業、片時も子どもの「活動」を止めないことが迫られるような気にさえなります。

脳科学では以前から知られる「何もしていないときほど脳が活性化」

脳科学の研究では、以前から、人間の脳は何もしていない、ぼんやりしている時のほうが、何かに取り組み、刺激を受けている時よりも、活発に活動しているということが知られていました。

何もしていないときの人間の脳では、脳内ネットワークが活発に働き、情報の整理が行われ、さまざまな情報が改めて関連付けられることで、新しいアイデアが浮かんだり、課題解決の糸口が発見されているとされます。

ニュートンもデカルトも「何もしていないとき」に大発見

散歩や入浴中にいいアイデアがうかんでくるということは、だれしも経験的に知られていることですが、歴史的にも、ニュートンやデカルトをはじめとして、学術研究の分野でも様々な有名人が「何もしていない、ぼんやりしているとき」に歴史的な発見やアイデアにたどり着いています。

それこそ文科省の言う「答えのない問いへの学び」で物事を根本から変えていく新しいアイデア、斬新な考え方は、このような何もしない時間の中でこそ期待できるということになります。

忙しくしていないといけない、絶えず情報にさらされる現代の生活

原始の採集時代の1日の労働時間は3~4時間だったといわれ、現代の採集生活をする人々も、1日のほとんどを何もせずに過ごしています。

日本の江戸時代の職人も実労働4時間程度でとにかく休憩ばかりしていると、幕末から明治初期に日本にきた外国人が記録に残しています。農民でも1日8時間程度で、年間の休日も多く、収穫後には何もせずに長期間だらだら過ごす湯治の風習も広く行われていました。

しかし、現代の利潤追求の経済システムが広がる中で、特に工場、会社の労働者を「無駄なく効率的に働かせる」ために、勤勉が強調され、何もしていないことが罪と思わせるような風潮が広がったとされます。

頭の中を、情報のごみ屋敷にしない、

情報に支配され、自分や大切なことを見失わないために

ビジネスベースの教育方法やコンテンツが急速に学校の中に浸透しています。

ビジネス手法というのは「短期的に、最大限の効率で、特定の分野で最大の成果を上げる」という考えが根底にあります。無駄や回り道をできるだけなくすこと、上から求められる「資質能力」を高めるためにどれだけ貢献しているかがポイントになります。

しかし、ICTやタブレットも含め、絶えず情報や刺激にさらされ、ぼーっとせずに常に何かに取り組んでいることが求められる中で、頭の中は情報のごみ屋敷となり、自ら考えて、本当に何が大切なのかを考える余裕を奪われてしまいかねません。

先生たちにとっても、本来の専門性、創造性や自主性を発揮できるためにも、散歩したり、自然の中でゆっくり過ごし、「何もせず、ぼんやりできる」時間が保障される働き方、業務の在り方に替えるべきです。



第33回枚方子ども会議総会&交流会

6月30日(日) 13:30 枚方市総合文化芸術センター別館 2階 多目的室

保護者、市民とともに学校と教育、 子どもたちの実態やリアルな声を交流しよう

今年で33回目を迎える枚方子ども会議の総会&交流会。

枚方の教育と子育てにかかわる保護者や市民、さまざまな団体が集まり、たがいに交流しあいながら何ができるのかを考えてきたのが枚方子ども会議です。

今年は日本が「子どもの権利条約」を批准して30年の節目の年。枚方子ども会議は当初から、子どもの権利条約を学校、教育や保育現場などに広め、条約に沿った取り組みを進めることを重視してきました。

急激に変化する学校、先生でも大変、保護者はもっと「わからない」

現在急激にICT、タブレットの普及と授業の在り方の転換が進む中で、急激に学校が変化。先生でもついていくのが大変。ましてや保護者はもっと、学校の中身がどうなっているのかわからない状態に置かれてしまっています。

学校や委員会からは、ポジティブな言葉や詭ばかりが広められる一方、さまざまな心配や疑問が膨らむ一方。子どもにかかわる学校の先生も保護者や市民も一緒になって、今の子どもや教育について語り合うことが何より重要になっています。

どなたでも参加歓迎。当日の参加大丈夫です、ぜひ率直に語り合い、交流していきましょう。

教職員と家族を守る大教済、総合教済

新採用の先生にBIGスリー 全部合わせても月900円

- ① 総合教済 月600円でお祝い、お見舞金がたくさん、退会時に掛け金全額返金
- ② 教職員賠償共済 月100円で学校業務の過失や賠償に対応、弁護士費用も
- ③ 暮らしの賠償共済 月200円で日常生活の過失、賠償に対応、示談代行、国内賠償無制限

← 家族も補償 大阪府自転車条例にも対応

何かあればすぐに相談、困ったときに一人にしません！！

安心して働き続けるために、新採者のBIGスリーへの加入は必須

申し込みフォーム

毎年多数の
新採者が加入



バイク保険 バイク通勤ならぜひ加入を

もしもの時、自賠責だけでは大変なことに **この事例が急増中！！**

自動車保険のファミリーバイク特約は原付(125cc以下)のみ、

任意保険に加入せず、困難になる例が増加中 原付の方以外はぜひ加入を

自賠責だけなら、【示談交渉、相手の車の賠償、自分・同乗者のケガ】すべて自分で

相手のケガの賠償上限も150万円まで、上限異常は自腹に

例 二輪バイク(125cc超) 26歳以上補償の場合 保険料 月4,090円

補償内容 対人・対物(無制限)、自損事故、搭乗者にも対応、弁護士費用、示談対応

全教(全日本教職員組合)の枚方教職員組合のニュースです 枚方教組に加入して学校や働き方を変えていきましょう